



大鋸の丘

2026(令和8)年3月(臨時号)

藤沢市立大鋸小学校

校長 近藤 千鶴

2025年度 よりよい学校づくりのためのアンケート結果と考察

今年度も、3・5年生の児童と保護者、教職員、学校関係者による、よりよい学校づくりのための学校評価アンケートを実施いたしました。

※小数点以下を四捨五入して表記されているため、100%にならない項目があります。

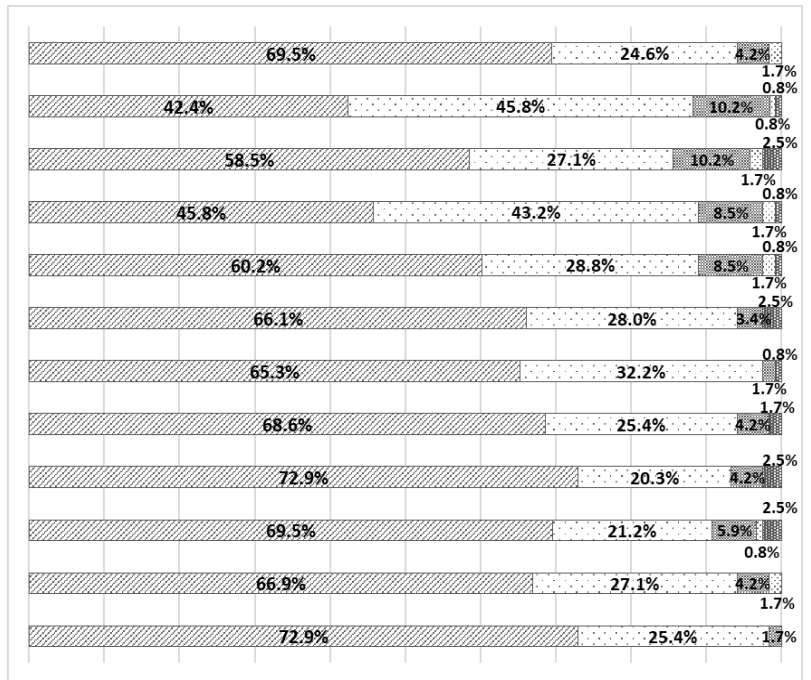


【児童アンケートの結果】

3年生

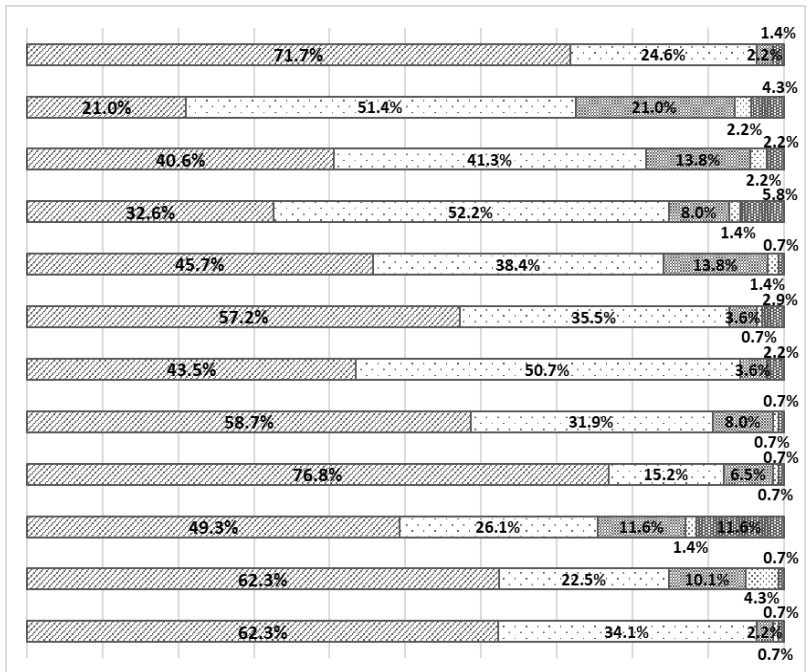
■ そう思う □ ほぼそう思う ■ あまり思わない □ 思わない ■ よくわからない

1. 学校では、友だちと元気に遊んだり勉強したりしている。
2. 勉強でも生活でも、よく考え、はじめのある行動をしている。
3. できないことがあっても、あきらめずにできるまで頑張ろうとしている。
4. 誰にでも優しく、思いやりの気持ちをもって行動している。
5. 学校や地域で、進んであいさつをしようとしている。
6. 係や当番(委員会)などの仕事を、進んで行っている。
7. 学校のきまりを守っている。
8. 毎日の学習は、だいたい理解できている。
9. 何でも話したり、話を聞いてあげたりする友だちがいる。
10. 学校には、いじめなどこまったときに、話を聞いてくれる先生がいる。
11. 家族に学校の様子を話している。
12. 身の回りの安全について気をつけている。



5年生

1. 学校では、友だちと元気に遊んだり勉強したりしている。
2. 勉強でも生活でも、よく考え、はじめのある行動をしている。
3. できないことがあっても、あきらめずにできるまで頑張ろうとしている。
4. 誰にでも優しく、思いやりの気持ちをもって行動している。
5. 学校や地域で、進んであいさつをしようとしている。
6. 係や当番(委員会)などの仕事を、進んで行っている。
7. 学校のきまりを守っている。
8. 毎日の学習は、だいたい理解できている。
9. 何でも話したり、話を聞いてあげたりする友だちがいる。
10. 学校には、いじめなどこまったときに、話を聞いてくれる先生がいる。
11. 家族に学校の様子を話している。
12. 身の回りの安全について気をつけている。



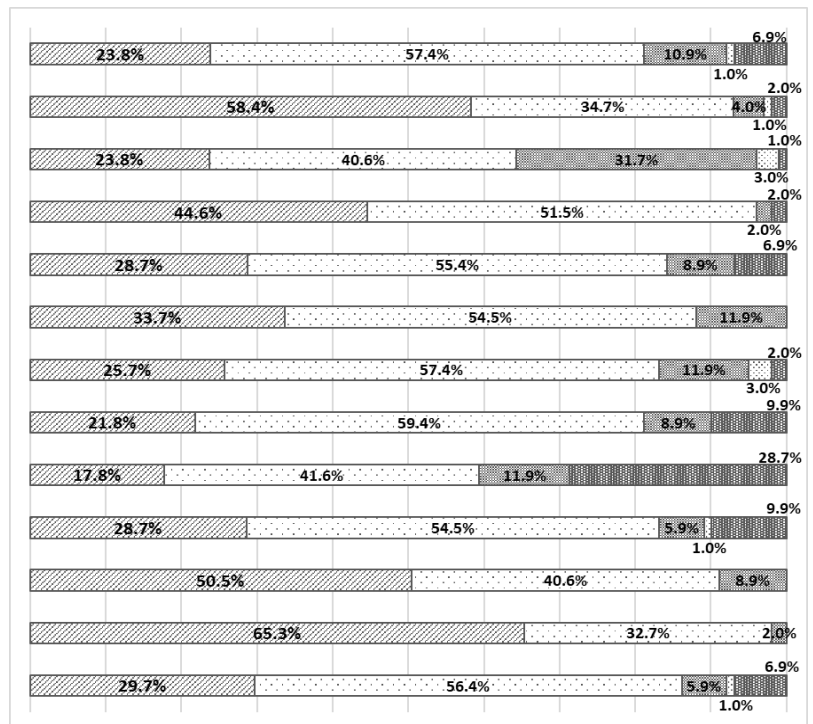
【保護者アンケートの結果】

今年度の保護者アンケートでは、3年生で83%、5年生で76%と、いずれも高い回答率となりました。これまで3年間（ウェブ回答）は、おおむね65%前後で推移していたことを考えると、多くの保護者の皆さまにご協力いただいたことを、大変嬉しく、ありがたく感じています。

保護者の皆様におかれましても、このアンケート結果から、ご家庭での様子を振り返っていただければと思います。

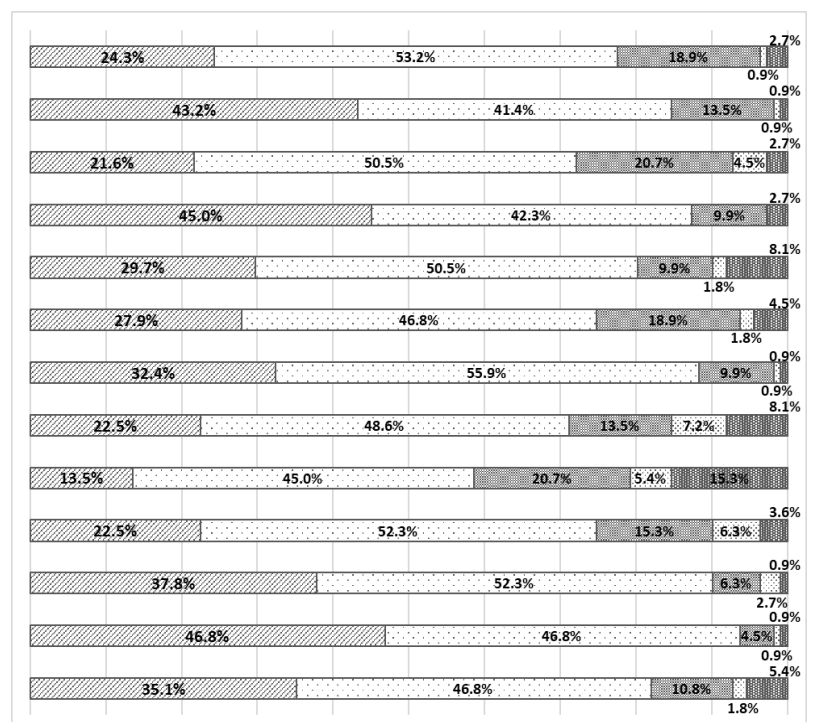
3年生保護者

1. 学校は、教育目標や指針を分かりやすく示している。
2. 子どもは楽しく学校に行っている。
3. 子どもは家庭や地域で、進んであいさつをしている。
4. 子どもが食事や睡眠など、規則正しい生活をするよう促している。
5. 学校は分かりやすい授業に努めている。
6. 保護者は、子どもの家庭学習に協力している。
7. 子どもは学習をだいたい理解している。
8. 学校は保護者が相談できる体制を整えている。
9. 学校は、子どもの話をていねいに聞き、いじめ防止等に努めている。
10. 学校は、適切な情報発信に努めている。
11. 子どもから、学校の様子を聞いている。
12. 保護者は、学校や学年からのたよりを読んでいる。
13. 学校は、子どもの安全・防災・防犯等、子どもの安全確保に努めている。



5年生保護者

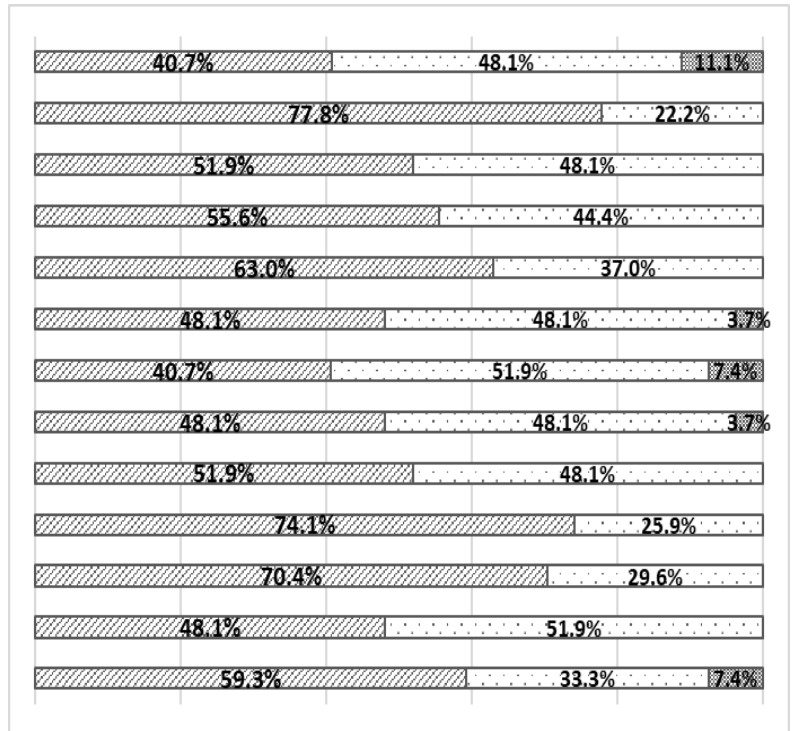
1. 学校は、教育目標や指針を分かりやすく示している。
2. 子どもは楽しく学校に行っている。
3. 子どもは家庭や地域で、進んであいさつをしている。
4. 子どもが食事や睡眠など、規則正しい生活をするよう促している。
5. 学校は分かりやすい授業に努めている。
6. 保護者は、子どもの家庭学習に協力している。
7. 子どもは学習をだいたい理解している。
8. 学校は保護者が相談できる体制を整えている。
9. 学校は、子どもの話をていねいに聞き、いじめ防止等に努めている。
10. 学校は、適切な情報発信に努めている。
11. 子どもから、学校の様子を聞いている。
12. 保護者は、学校や学年からのたよりを読んでいる。
13. 学校は、子どもの安全・防災・防犯等、子どもの安全確保に努めている。



【教職員アンケートの結果】

1. 学校教育目標・校内研究テーマを目指して教育活動を行っている。
2. 子どもたちが、楽しく充実した学校生活になるよう努めている。
3. よく考え、はじめのある行動をするよう指導している。
4. 最後までやり遂げられるよう継続した支援を行っている。
5. 互いに認め合い、思いやりのある児童の育成に努めている。
6. 子どもたちが、場に応じた自然なあいさつができるよう指導している。
7. 子どもたちが、自主的自発的に活動できるよう努めている。
8. 子どもたちに、基本的な生活習慣の定着を図っている。
9. 分かりやすく、楽しい授業づくりに努めている。
10. 一人一人を大切にされた教育活動に努めている。
11. 児童の様子を共有し、組織的な児童指導・児童支援を行っている。
12. 学級や授業等の情報を発信し、家庭との連携に努めている。
13. 児童の安全確保のため、環境整備や安全・防災・防犯指導に努めている。

そう思う
 ほぼそう思う
 あまり思わない
 思わない
 よくわからない



【学校関係者アンケートの結果】 ※単位 人

項目	番号	内容	そう思う	ほぼそう思う	あまり思わない	思わない	よくわからない
教育目標・指針	1	学校は、教育目標や指針を分かりやすく示している。	8	1			
生活	2	子どもたちにとって、学校は楽しい場所になっている。	8	1			
	3	子どもたちは、家庭や地域で、あいさつをしている。	5	4			
学習	4	学校は分かりやすい授業に努めている。	7	2			
	5	家庭は、子どもの学習に関心をもっている。	3	6			
相談・支援	6	学校は、保護者が相談できる体制を整えている。	7	2			
	7	学校は、子どもの話をていねいに聞き、いじめ防止等に努めている。	8	1			
情報	8	学校は、適切な情報発信に努めている。	8	1			
安全	9	学校は、子どもの安全・防災・防犯等、子どもの安全確保に努めている。	8	1			

【学校教育目標】

「自らの体験を通して 伸びようとする子どもの育成」

【めざす子どもの姿】

- ◆元気な子 … 自己効力感を高め、自分の成長を実感する子
- ◆よく考える子 … 自分で考え判断し、学びを深め高める子
- ◆ねばり強い子 … 自分と向き合い、ねばり強く取り組む子
- ◆思いやりのある子 … 自分や友だちを認め、大切にする子

《スローガン》

笑顔がいっぱい！ 「ごきげん」な 大鋸小



結果から見えてきたこと（考察）

1. めざす子どもの姿から 三者（児童・保護者・教職員）評価（全体傾向）

めざす子どもの姿	強み	課題
元気な子	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員のねらいと児童の実感とは概ね一致していることがうかがえます。 ● 思いやりや人間関係の育ちは、三者で共通して肯定的に受け止められています。 ● 自己効力感や学ぶことへの前向きな姿勢が育まれています。 	「よく考え、けじめのある行動をしている」と、肯定的に捉えている児童はいるものの、強く実感しきれない面や厳しく自己評価をする児童の姿が見られました。
よく考える子		
ねばり強い子		
思いやりのある子		

2. ごきげん（ウェルビーイング）の視点から

「ごきげん」の視点	見えてくること
安心して登校できる	多くの児童が、学校を「安心して過ごせる場所」と感じていることがうかがえます。今後も、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、心身ともに安心できる環境づくりを大切にしていきます。
学校が楽しい	学校生活そのものを前向きに捉えている児童が多いことは、本校の大きな強みです。友だちとの関わりや学びの時間、行事などを通して、「学校が楽しい」と感じられる日々が積み重なっていることがうかがえます。
認められている	児童の実感から、自分のよさやがんばりを認められていると感じている様子がうかがえ、自己肯定感が着実に育ってきていると考えられます。
困ったときに相談できる	「何でも話せる友だちがいる」「困ったときに話を聞いてくれる先生がいる」と感じている割合はいずれも高く、多くの児童が安心してできる人間関係の中で学校生活を送っていることがうかがえます。教職員の評価も高く、相談体制についても機能していると捉えています。

3. アンケート項目から

項目	見えてくること
挨拶をしようとしている	校内においては、挨拶をしようとする意識が一定程度定着している様子がうかがえます。一方で、登下校時や地域での様子については、家庭に十分伝わっていない可能性も考えられます。
学習を理解できている	授業での学びについては、児童自身が「分かっている」と実感しているとともに、保護者にも概ねその成果が伝わっていることがうかがえます。
いじめ防止に努めている	日常的な指導や取り組みの結果が児童の実感として表れている一方、家庭に十分伝わりきっていない様子が見られました。「伝える」情報発信について工夫できることを考えていきます。
学校の様子を話している	三者ともに概ね肯定的な結果となっており、学校での出来事や学びについて、家庭内での対話が一定程度広がっていることがうかがえました。
安全に気を付けている	三者ともに概ね肯定的な評価であり、安全に関する指導や意識づけが一定程度定着していることが読み取れました。

4. 総合的なまとめ

児童の実感と教職員のねらいは多くの項目で概ね一致しており、学校生活への前向きな姿勢や安心感、思いやり、自己肯定感が着実に育っていることがうかがえました。一方で、「よく考え、けじめのある行動」については、自分を厳しく評価する児童の姿も見られ、自分の考えに自信をもち、行動につなげているという実感には、なお伸びしろがあることが分かりました。今後も、子どもたちの思考や試行錯誤の過程を大切に、その努力を丁寧に認めながら、「できた」という実感と自信を育ててまいります。

5. 学校運営協議会より

保護者アンケートの回答率が向上したことからも、学校の取り組みへの関心や信頼が高まっていることがうかがえました。学校の教育活動は概ね良好に受け止められており、日頃から多くの児童がのびのびと学校生活を送っているように感じています。

一方で、学習面や生活面において配慮が必要な児童への支援については、今後も丁寧に、愛情をもって継続してほしいとの声がありました。また、「学校は楽しい」と感じている児童が多数を占めるものの、肯定的に捉えきれない児童へのきめ細かな働きかけを大切にしてほしいとご意見をいただきました。

いじめ防止の取り組みについては、日常の見守りや相談、対応など目に見えにくい部分も多いため、学校の取り組みが十分に伝わっていない可能性があるとの指摘もありました。

今後は、相談体制や未然防止の取り組みについて、より具体的かつ丁寧に発信していく必要があると考えています。

6. 今後に向けて（次年度への視点）

- 現在の良さ（安心・楽しさ・人とのつながり）を大切に継続する。
- 小さな困り感も言葉にできる雰囲気づくりを進める。
- 子どもの成長の過程を、家庭や地域により分かりやすく伝えていく。